

ナラ枯れ被害の拡大防止について

体長5mm程度のカシノナガキクイムシという昆虫が、ナラやシイ・カシなどの幹にせん入する際にナラ菌を樹体内に持ち込みます。持ち込まれたナラ菌によって樹木の細胞が壊死し、通水障害が起きることで樹木が枯死することを「ナラ枯れ」と呼んでいます。



被害にあったナラ（秋田県仙北市）

東北森林管理局管内の国有林におけるナラ枯れ被害本数は、平成21年度の約5.9万本をピークに減少したものの、令和2年度に再び増加し、その後は2万本程度で横ばいとなっていました。令和6年度には約4.3万本、令和7年度では約7.3万本と急増している状況にあります。

国有林ではこれまで被害が確認されていなかった地域でも被害が発生している状況を踏まえて、被害先端地域を中心に地元自治体等と連携を図りながらナラ枯れ被害木の伐倒・くん蒸処理による駆除や、殺菌剤の樹幹注入による予防に努めております。また、「東北森林管理局におけるクマ被害対策パッケージ」に基づき、クマなどの野生鳥獣の生息環境の保全に向け、奥山や林業の適地以外では自然条件等に応じて針広混交林や広葉樹林への誘導を進めるほか、「ナラ枯れ被害対策」の取組を実施し、人の生活圏との棲み分けを図ることとしております。

ご関心のある方は、東北森林管理局保全課
(TEL:018-836-2417)へお問合せ下さい。

野ネズミによる森林被害

野ネズミによる森林被害は、1970年代まで全国の被害面積が5万ヘクタールにもおよぶ深刻な問題でした。その後、新規造林の減少に加え、野ネズミ発生数の予測法や薬剤による防除技術の確立により、近年では被害は減少しています。しかし、多い年には現在でも全国で1千ヘクタールもの被害が発生しています。近年の大規模な被害の多くは北海道のエゾヤチネズミによるものですが、局地的な被害は全国各地で見られます。

東北地方の森林には、アカネズミ、ヒメネズミ、ヤチネズミ、ハタネズミの4種類の野ネズミが生息しています。このうち、森林被害を引き起こすのは、おもにハタネズミとヤチネズミです。野ネズミは、植栽木の根や地際近くの樹皮、形成層を食害し、被害がひどい場合には木が枯死します。被害は冬季に雪の下で生じることが多く、春になって初めて気づくことも少なくありません。

北海道のエゾヤチネズミに関する研究では、カラマツやスギなどは食害を受けやすく、グイマツ、トドマツ、アカエゾマツなどは食害を受けにくいことが知られています。本州では、カラマツやスギに加え、ヒノキやアカマツでも被害が発生しています。野ネズミの食害を受けやすいカラマツなどの造林が拡大すると、被害が再び増加する可能性がありますので、今後も野ネズミの動向に注意を払う必要があります。



森林被害を起こすこともあるハタネズミ

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。